

第155回 青森県立図書館協議会 会議結果

1 日時・場所

平成28年6月14日（火） 13:30～15:25

青森市荒川字藤戸119-7 青森県立図書館 4階 集会室

2 出席者

《協議会委員》 敬称略 7名

西山 康巳 幸山 朋人 前田 敏子 村林 徹

生島 美和 小笠原 秀樹 寺田 さゆり

《図書館》

佐藤 宰 （図書館長） 外6名

3 会議の概要

(1) 図書館長あいさつ

(2) 委員及び県立図書館・近代文学館職員の紹介

(3) 議長・副議長選出

議長 西山 康巳、副議長 若佐谷 昭人を選出

(4) 案件

① 平成28年度県立図書館及び近代文学館の業務及び事業について

② 館内視察

委員の主な意見・要望等

案件①

委員

以前はあまり見られなかったが、新たな目標を掲げることで、それに向けて職員が気運を盛り上げようという意気込みが感じられたので、是非頑張ってもらいたい。

図書館の機能を重視することも大切であるが、県内の図書館に本を読む環境や文化を創る働きかけをして欲しい。子どもだけではなく大人も本を読む文化を創っていけるサービスを意識して欲しい。

そのために、2つポイントがあると思う。1つめとしては、図書館に関わる人の人材育成をして欲しい。10年後、20年後を見据え、図書館を支える人を育てる必要がある。

秋田県のプロジェクトで、市町村が学校図書館に司書を配置し芽を出させていくような取り組みをしている。ボランティアにしても活動の中から何かを生み出すような仕掛けを考えている。それらの活動により、人材が育っていくのではないかと考える。

2つめとして、評価についてである。利用者数やレファレンスの件数など、質的な調査を意識的に重視しており、それも大事なことではあるが、利用者の声、利用者の反応も評価のデータとして取り入れていただきたい。

図書館

県内の図書館を巡回して感じたのは、現状に満足はしていないが諦めかけているのではないかとということである。

県立図書館としては、市町村図書館が単独で考えるのではなく、周辺の図書館から刺激を受けたり助け合ったりしながら、県立図書館の力を利用しつつ「元気な図書館」になっていただければありがたいと考えている。

学校図書館についても県内の状況はかなり厳しい数値となっている。これについても学校長や教育委員会に学校図書館の位置付けを再認識していただく必要があると考えており、各教育事務所長の学校訪問の際には、学校図書館を話題に取り上げ、意見交換するよう働きかけているところである。

本を読む土壌づくりはすぐに結果が出るものではないが、少しずつ進めて行きたいと考えている。

委員

館長が県内を巡回することは、市町村図書館にとって刺激にもなることから是非今後も続けていただきたい。

県の人口が減っており、それに伴って県立図書館の利用者数が減少傾向にあるようだ。良い事業を企画し、実施しているのに交通の便の悪さもあり、なかなか来館に結びついていないのではないか。

図書館

今年度も職員を中心としながら、県内巡回を実施する予定である。

利用者数は確かに減少しており、危機感を持っている。全国の全ての図書館の利用者数が落ちているかというそうではない。リニューアルしながら利用者の視点で物事を考えている図書館は増えている。また、交通の便の良い図書館はよく利用されている。

当館は市街地から離れており、交通の便が良いとは言えないが、利用していただくよう対策を考えていきたい。ただ、県立図書館として来館利用者だけが全てではなく、県内市町村図書館をご利用いただき、身近な市町村図書館で県立図書館のサービスを受けるといった方法を充実させていきたいと考えている。

委員

近年、他県では例えば「TUTAYA」が運営する図書館などが注目されており、交流する場としての図書館を目指す動きがある。図書館の今後の進む方向をお聞きしたい。

もう一点として、県内の学校図書館の状況である。県立図書館では学校図書館のサポート事業を行っており、現場ではとても助かっている。しかし、学校司書の配置についてはこれまで全国で唯一ゼロであるなど憂慮される状況である。これらを踏まえ、今後学校図書館への支援をどう展開していくのか、何を目指していくのかお聞きしたい。

図書館

図書館の利用者に資料を提供するという基本的な在り方は変わっていないと考えてい

る。ただ、利用者の目線に立って役に立つ図書館を考えてきたということと、指定管理者制度等の導入により図書館に対する社会全体の目線に変化が生じてきたのではないかと思う。

図書館

図書館の基本は変わらないと思っているが、利用者の求めは多様化してきている。利用者個々の要求に対して的確に応じることが求められるようになってきているのではないか。

図書館

市町村図書館は、これまでは所蔵している資料の活用に重点を置いてきたが、近年は図書館を街づくりの重要な施設と捉えてきている。図書館はコミュニティづくりには使い勝手の良い施設であると捉え直されてきているのではないかと思っている。

学校図書館の件であるが、県においてこれまで学校図書館の認識が薄かったのは事実であるが、八戸市では学校司書を置くこととなり、県でも県立高校6校に置くこととした。県立図書館としてもこの機会を捉え、高等学校の活動をサポートしながら、配置していない市町村にも学校司書の有用性をアピールしていきたいと考えている。

委員

県立図書館の重要な役割は、県内図書館の繋がりを作っていくことだと考える。

市町村の図書館は話が出たとおり、街づくりの拠点として住民がどう参画できるかが重要ではないか。人口が減っていく中で、諦めムードのある図書館も見受けられるが、県内に「元気な図書館」を育つよう、情報を共有しながら尽力していただきたい。

案件②

委員

弘前市の図書館では、指定管理者制度の導入に向けた動きがある。住民にとって図書館

は知の拠点であり「図書館の自由に関する宣言」をもっとアピールする必要性を感じる。
図書館の存在意義を発信する仕掛けを考えて欲しい。

図書館

それぞれの住民の意見を取り入れながら図書館の経営を考えていく必要があると考えている。図書館側のスタッフの想いだけではなく、住民が図書館をどう思っているのかということを図書館側が考えていかなければならない。